

第10回 金沢自転車ネットワーク協議会 議事概要

日時：平成26年12月16日（火）10時00分～11時30分

場所：国土交通省 金沢河川国道事務所 2階会議室

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
 - 1) 金沢自転車ネットワーク協議会規約の改正について
 - 2) 金沢市内の自転車通行空間整備状況について
 - 3) 金沢市内の自転車通行空間整備ネットワーク構築に向けて
 - 4) 金沢自転車通行空間整備ガイドライン（案）の見直しについて
4. 閉会

議事要旨

■金沢自転車ネットワーク協議会規約の改正について

◎規約の改正内容について了承を得た。

■金沢市内の自転車通行空間整備状況について

- ◎自転車通行空間整備を行った路線において、事故が発生する箇所が出る可能性もあるため、空間整備と合わせて、個別の事故対策も行ってほしい。
- ◎自転車走行指導帯の整備路線において、駐停車中のクルマが開けたドアに自転車が接触する事故もあるため、そのような事故についても周知していく必要がある。

■金沢市内の自転車通行空間整備ネットワークの構築に向けて

- ◎通行環境改善検討区間の対応方針は理にかなっており、金沢から幹線道路における対応策を発信し、全国にも広めていってほしい。
- ◎自転車関連事故の発生箇所とともに事故形態についても細かく分析した上で、ネットワークを検討いただきたい。
- ◎地元等に説明する際には調査結果が必要になるため、今回のような調査を行っていくことは重要である。今後の調査に向けても是非国から支援をお願いしたい。
- ◎取組を行ってきた成果のアウトプットとして、取組による効果を打ち出していくことが必要である。

■金沢自転車通行空間整備ガイドライン（案）の見直しについて

- ◎帯状の路面表示だけを設置すると、自転車の通行方向が分からなくなるため、矢羽根を設置できる場所では、矢羽根を優先的に使用した方が良い。
- ◎道路状況に応じて矢羽根や帯状の路面表示を選択できるようにすることも考えられる。
- ◎自転車通行空間を着色する色は、その場所の道路状況に応じて明度を変えていく方が良い。
- ◎矢羽根を設置する場合でも、自転車やクルマのドライバーからすると何の表示が分からないため、自転車マークと矢印は設置する必要がある。

【第10回金沢自転車ネットワーク協議会の様子】



委員名簿

分類	所属・氏名	出欠
学識者	金沢大学 教授 高山 純一	出席
	北陸大学 孔子学院 院長 三国 千秋	出席
	地球の友・金沢 三国 成子 (内閣府 第9次中央交通安全対策会議専門委員)	出席
警察	石川県警察本部 交通企画課長 川村 孝治	代理出席 (源課長補佐)
	石川県警察本部 交通規制課長 林 邦彦	代理出席 (宮本課長補佐)
	金沢中警察署 交通官 野田 孝	欠席
	金沢東警察署 地域交通官 三瀬 繁	出席
	金沢西警察署 地域交通官 蔵谷 町村	出席
行政 関係	国土交通省金沢河川国道事務所 調査第二課長 北出 一雅	出席
	石川県 土木部 道路整備課長 畠山 邦夫	代理出席 (西村課参事)
	石川県 土木部 都市計画課長 竹俣 隆一	代理出席 (山課長補佐)
	石川県 県央土木総合事務所 維持管理課長 吉本 一也	出席
	金沢市 都市政策局 交通政策部 歩ける環境推進課長 水口 哲哉	代理出席 (吉田課長補佐)
	金沢市 土木局 道路管理課長 中川 富喜	代理出席 (辰巳課長補佐)

議 事 概 要

○各委員、●事務局

■開会

●事務局（金沢河川国道事務所交通対策課 高島課長）

定刻となりましたので、ただいまより第10回金沢自転車ネットワーク協議会を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

私は、事務局を担当しております、国土交通省金沢河川国道事務所交通対策課長の高島でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

■会長挨拶

○金沢大学教授 高山会長

おはようございます。今回で協議会は10回目の開催となります。思い返せば、平成17年、18年頃に、金沢河川国道事務所の石川交通対策課長や、当時「自転車・歩行者安全マップ」を作成していた地球の友・金沢とともに、旧国道159号の自転車走行指導帯を検討しました。それを契機として、現在では金沢市内で自転車通行環境が進んできていると感じています。

他都市では、金沢市より自転車通行空間の整備延長が長いところもありますが、金沢では、国・県・市の各道路管理者が工夫して、安全な自転車通行空間を検討しているところが特徴だと感じています。

今回の協議会では、①規約の改正、②金沢市内の自転車通行空間整備状況、③金沢市内の自転車通行空間整備ネットワークの構築に向けて、④金沢自転車通行空間整備ガイドライン（案）の見直しの大きく4つの議題について検討いただくこととなっています。

金沢では、冬になると自転車を利用しにくい環境になりますが、自転車を全く利用しなくなるわけではありませんので、自転車ネットワークを整備していくことが重要であると感じています。今回の協議会もよろしくお願ひいたします。

■金沢自転車ネットワーク協議会規約の改正について

○規約の改正内容について了承を得た

■金沢市内の自転車通行空間整備状況について

○地球の友・金沢 三国成子委員

ご報告いただきましたように、自転車関連事故が発生しているところを徐々に改善いただいていることに、まず感謝申し上げます。特に、ポストの移設や中央体育館横の交差点対策は「自転車・歩行者安全マップ」を作成している際にも、危険が指摘されていたところで、対策を講じていただき改めて感謝申し上げます。

○金沢大学教授 高山会長

資料2 P11の自転車走行指導帯はいつごろ整備されたものですか。

○金沢市歩ける環境推進課 吉田課長補佐（代理出席）

自転車走行指導帯の整備時期について正確なことは覚えていませんが、クルマが一方通行の道路であるため、自転車走行指導帯を整備したことにより、自転車とクルマの出会い頭事故が増えた可能性があり、対策を講じることになりました。

○金沢大学教授 高山会長

今後もこのように事故が発生する箇所は出てくると思いますので、自転車通行空間の整備と合わせて、個別の事故対策も行ってほしいと思います。

○地球の友・金沢 三国成子委員

自転車走行指導帯の整備路線において、駐停車中のクルマが開けたドアに自転車が接触する事故もあると聞いていますので、そのような事故が発生していることを周知していく必要もあると思います。

■金沢市内の自転車通行空間整備ネットワークの構築に向けて

○金沢大学教授 高山会長

通行環境改善検討区間はクルマの交通量が多いため、自転車利用者が車道を走らなければならぬと感じていても、車道通行は怖いと感じてしまう区間であり、どのように対応していくかが課題となっています。

○北陸大学 孔子学院院長 三国委員

スイスなどでは、一度対応した方策がなかなかうまくいかず、場所によって対策を変えて対応しているようです。通行環境改善検討区間の対応方針は理にかなっており、金沢から幹線道路における対応策を発信し、全国にも広めていただければと感じています。

○金沢大学教授 高山会長

これまでは自転車が歩道を走っていたので、クルマのドライバーも車道はクルマ中心という考え方だったと思いますが、これからは自転車も車道に下りてきますので、クルマのドライバーの意識も変えていく必要があると思います。金沢は、道路環境が悪いため、道路を譲り合って使っていく姿勢が重要であると感じます。

●事務局（金沢河川国道事務所交通対策課 堀口係長）

現在、金沢河川国道事務所では、国道157号の野町周辺の自転車対策を検討しているところです。金沢自転車通行空間整備ガイドライン（案）では、国道359号における自転車走行指導帯の整備事例を参考に、4車線道路であればクルマの交通量が25,000台/日（1車線あたり6,250台/日以下）の路線について、自転車走行指導帯の整備を検討できるとしています。検討対象区間は、クルマの交通量が32,000台/日を超える区間であり、自転車走行指導帯の整備については、非常に勇気がいる整備になると感じています。

ただ、地元からは、高齢の歩行者の安全を確保するために、高速で走る高校生等の自転

車対策を行うようにと強く要望されておりますので、地元への説明にもこの案で提案していきたいと思っております。協議会でも引き続きご意見いただければと考えています。

○金沢大学教授 高山会長

朝の通勤時間帯はバスレーンに指定されていますので、バスの運転手さんが自転車を一番危険に感じているかもしれません。

○北陸大学 孔子学院院长 三国委員

金沢市内の自転車関連事故は、この5年で700件から350件程度に半減しています。今後さらに整備を進めていけば、金沢市内の事故がさらに減少するとともに、周辺自治体の事故も減少していく可能性があると思っております。

○金沢大学教授 高山会長

今回のスマートフォン調査では、事務局の対応が早く、金沢大学でも学生や教員に対して参加を呼びかける一斉メールが配信されていましたが、これによりどの程度大学関係者の被験者が集まったのか把握されていますか。

●事務局（金沢河川国道事務所交通対策課 堀口係長）

まだ、調査が終了したばかりですので、参加者の年齢等の属性については把握できていない状況です。

○金沢大学教授 高山会長

市役所などでも自転車を利用されている方が多いと思われまますので、次回調査を行う際には、団体に対しても参加を求めていけば良いと思っております。

●事務局（金沢河川国道事務所交通対策課 堀口係長）

今年のスマートフォン調査は、高校生も対象として調査することを検討しましたが、高校生のスマホ所有を助長するのではと考え、今回は、高校生以外を対象として調査を実施しました。

○地球の友・金沢 三国成子委員

スマートフォン調査では、自転車が歩道を通行しているのか、車道を通行しているのかは分かるのですか。

●事務局（金沢河川国道事務所交通対策課 堀口係長）

GPSの精度がそこまで高くないため、調査できていません。

○地球の友・金沢 三国成子委員

自転車関連事故の発生箇所についてですが、事故形態についても細かく見ていく必要があると感じています。例えば、幹線道路の場合、歩道を通行する自転車と細街路から飛び出すクルマとの出会い頭事故や見通しが悪い場所での事故が多いなど、事故形態についても分析した上で、ネットワークを検討いただければと思います。

また、歩道において自転車と歩行者の通行位置を分離する対策では、交差点での事故は減少していないことが分かっていますので、今後対策を検討して行けなければならないと感じています。

○北陸大学 孔子学院院長 三国委員

地元等に説明する際には、調査結果は必要になりますので、今回のような調査を行っていくことは重要だと思います。ただ、市や県では、予算的にも大規模な調査を行うことは難しいと思いますので、今回のような調査については、是非国に支援いただければと思います。

他都市について聞いていると、警察と道路管理者の関係があまり良くないため、事故データ等もなかなか提供いただけないこともあるようで、金沢では警察と道路管理者との関係が良いのだと感じています。

○金沢大学教授 高山会長

これまでは金沢市内を対象として検討してきましたが、金沢市周辺の野々市市や内灘町なども巻き込んだ取組を検討していく必要があると考えています。これは県が主導するか国が主導するかは分かりませんが、周辺市町との連携もそろそろ検討していく必要があると思います。

○金沢河川国道事務所 調査第二課課長

三国先生が仰った通り、取組を行ってきた成果を出していく必要があると感じています。アウトプットとしてこのような効果が出たと打ち出していくことが必要と感じます。

○地球の友・金沢 三国成子委員

今は、たまたま金沢から自転車通行空間整備が進んでいますので、協議会の名称も金沢自転車ネットワーク協議会となっていますが、自転車利用者は同じ市町内だけを通行しているわけではありませんので、協議会に他の自治体も参加いただくことを検討いただければと思います。

○金沢大学教授 高山会長

例えば、協議会の名称を金沢都市圏自転車ネットワーク協議会にすれば良いのではないのでしょうか。

●事務局（金沢河川国道事務所交通対策課 堀口係長）

今年度は、もう一度協議会の開催を予定していますので、野々市市や内灘町等の周辺自治体にも声を掛け、オブザーバー等として参加いただきたいと思います。

○金沢大学教授 高山会長

石川県全域に効果を波及させていくことが重要ですので、拡大協議会としていくことを期待します。

■金沢自転車通行空間整備ガイドライン（案）の見直しについて

○金沢大学教授 高山会長

資料4 P5のように、金沢では幹線道路の自転車走行指導帯を、単路部は帯状に着色する方法で整備が進められています。一方で、全国的な動きに合わせて、単路部も矢羽根を設置していくことも考えられます。

この際に、自転車利用者が矢羽根や帯状の表示をどのように感じるのかを把握しておく必要があると感じています。個人的に矢羽根は、減速を促す箇所で設置される印象がありますので、高校生や一般の自転車利用者、クルマのドライバー等に対して矢羽根や帯状の路面表示をどのように感じるか聞いてみることも一つの方法と考えています。

この結果を受けて、道路状況に応じて矢羽根や帯状の路面表示を選択できるようにすることも考えられます。

○金沢西警察署 地域交通官 蔵谷委員

県外の方が、金沢市で自転車を利用される可能性もありますので、そのような方に分かりやすい路面表示を設置する必要があると思います。

○地球の友・金沢 三国成子委員

現在、久安2丁目の交差点では、矢羽根ではなく、破線で交差点の通行位置が示されている状況ですが、破線は、高校生には分かりにくく、矢羽根のように幅があった方が交差点を直進しやすいように感じています。個人的には、単路部は、矢羽根でも帯状の表示でも良いと感じていますが、全国的に矢羽根が主流になれば、金沢でも矢羽根に統一しても良いと感じています。

以前、東京国道事務所が世田谷のバスレーンに自転車走行指導帯のような整備をしたいということで、現場を見に行ってきました。整備予定路線の上には高速道路が整備されているため非常に暗く、自転車の通行位置を着色する色も明るい色を使用した方が良いと感じましたので、その場所に応じて色の明度を変えていく方が良いと感じました。

もう一つは、矢羽根を設置する場合でも、自転車やクルマのドライバーからすると何の表示か分からないと思いますので、自転車マークと矢印は設置する必要があると感じます。

○石川県警察本部交通企画課 源課長補佐（代理出席）

帯状の路面表示だけを設置すると、自転車の通行方向が分からなくなると感じますので、矢羽根を設置できる場所では、矢羽根を優先的に使用した方が良いと感じます。

○金沢東警察署 地域交通官 三瀬委員

クルマの一方通行道路では、クルマが通行する方向と逆方向に走る自転車を見ずに事故が発生していると考えられますので、矢羽根により自転車の進行方向を示した方が良いと感じます。

○北陸大学 孔子学院院長 三国委員

街頭指導などをして、二段階右折はなかなか守ってもらえないのが現実です。ただ、高校の先生が生徒に対してルールを教えるためにも、二段階右折の路面表示を設置することは重要であり、根気強く設置し、指導していくことが必要と感じています。

○金沢大学教授 高山会長

今回の協議会では、通行環境改善検討区間に対する方針案を3つご提案いただきましたが、その場所に応じた整備方針を考えていくことが重要だと思います。方針1で示されている、自転車走行指導帯の整備と歩道通行可の併用は有効だと思います。自転車には、速

度が速い自転車も遅い自転車もいますので、無理やり車道に下ろすのではなく、自転車利用者に任せる形で良いのではと思います。

自転車関連事故は減少してきているようですが、事故が発生する箇所についてはきめ細かく個別に安全対策を検討いただくことが重要かと思います。

また、郊外部のネットワークについては、近隣の市町村も巻き込み、協議会を拡大させて再スタートできればと思います。

最後に、ガイドライン案の見直しについては、矢羽根や二段階右折についてご意見いただきましたので、事務局で整理いただき、現場で使いやすいガイドラインに見直していただければと思います。

○北陸大学 孔子学院院長 三国委員

環境省の会議で、宇都宮市と金沢市が、全国で最も自転車関連事故が減少しているという報告があり、全国的にも金沢は注目されていると感じています。金沢でこのような協議会や勉強会を開催していくことで、その取組が全国に発信していくことになり、この取組が全国のモデルになることも考えられますので、この会議は非常に重要と感じています。この場で、情報交換をして、より良いものを作っていければと考えています。

■閉会

●事務局（金沢河川国道事務所交通対策課 高島課長）

高山会長、委員の皆様、活発なご議論をいただき、ありがとうございました。今回のご意見を踏まえ、自転車通行空間整備ネットワークの素案や、金沢版ガイドラインの見直し案の作成を進めていきたいと考えております。

なお、次回の協議会は、来年2月中旬ごろを想定しております。改めて事前にご案内致しますので、年度末のお忙しい時期かと存じますが、ご参加のほど、よろしくお願い致します。

以上をもちまして、第10回金沢自転車ネットワーク協議会を終了致します。ありがとうございました。

以上